

ARSc300GA

言語文化演習 一知ってるアメリカ・知らないアメリカ

榎木 玲子

配当年次/単位：3~4年 / 4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一つの「場」から別の「場」へ足を踏み入れるとき、人は多くの発見をします。日本を離れて初めて見えてきたことが、SA 期間中には数多くあったのではないのでしょうか。音楽、映画、テレビなどのメディア文化の豊かさや危うさ、生活様式、教育システム、あるいは大統領選挙、銃規制問題、国や人に対するイメージなどについて、当たり前だと思い込んでいた事柄がもろくも崩れ去ってしまう経験は「自分」という狭い箱から抜け出すきっかけとして、とても貴重です。当演習では、せっかく得られたその経験を忘れないうちに一つ一つ切り出し、組上りにのせ、分析を加えます。テーマは「異文化を知り、自分を知る」。担当教員の専門領域がアメリカ文化なので、アメリカに関する知見を深めることがサブテーマとなるでしょう。

【到達目標】

I. この演習で学生は以下の力を身につけます。

- (1) 一つの題材から、検討に値する問題点を見つけ出す。
  - (2) 上記の問題点の理由を調べ、解釈・検討し、それを他者に伝える。
  - (3) 他者の意見に耳を傾け、場合によっては見解を修正しつつ、より正確で精緻な、説得力のある結論へと練り上げる。
- 言い換えれば(1)~(3)のプロセスを通して、学生は問題発見、情報収集、解釈と分析と思考、そして表現のスキルを磨いてゆきます。それが当演習の目標の一つです。

II. こうした探求の姿勢は、一つの事象の背景が決して単一で単純ではないことを、改めて気づかせてくれるはずです。その複雑さをときほぐすための、強靱かつ繊細な知力と感受性を身につけることも、当演習の目標となります。

III. 「大学時代になにを学びましたか？」と聞かれたとき躊躇なく答えられることをめざします。

【授業の進め方と方法】

教員が用意し、または学生のリクエストによる文献、映画、テレビ番組、音楽などを読み/聞き/観てから、それらについて問題設定を行い、プレゼンテーションならびにディスカッションを行います。また、学生は授業で浮かび上がった問題や、自分の経験を通して興味を抱いた事柄をテーマに選び、授業で獲得した方法を用い、情報を取捨選択しながらゼミレポートを完成させます。もちろん一人で作業するだけではありません。随時レポートの進行状況を報告しあいながら、学生同士の意見やアドバイスが活発に交差する機会を、授業内外で提供します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明。自己紹介がわりに SA 先などでの「？」や「！」体験の洗い出し（グループによる討議とプレゼンテーション）。
第 2 回	表象分析（1）	初回授業で気づいたことに基づき、表象作品（映画・音楽など）では、どんなテーマ設定が可能か検討します。
第 3 回	表象分析（2）	前回で設定したテーマに基づき、マイクロ分析、マクロ分析の方法を紹介し、実際に応用します。
第 4 回	アメリカ理解のためのトピック（1）	人種とその歴史的背景について検討します。
第 5 回	アメリカ理解のためのトピック（2）	おもに宗教について日本と比べながら検討します。

第 6 回	レポート合評会（1-1）	4 年次生のレポートをあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 7 回	レポート合評会（1-2）	前回のレポートに基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 8 回	レポート合評会（2-1）	4 年次生のレポートをあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 9 回	レポート合評会（2-2）	前回のレポートに基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 10 回	春学期レポート助走（1）	テーマ設定の仕方やレジユメの書き方、書式などについて説明します。
第 11 回	レポート合評会（3-1）	4 年次生のレポートをあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 12 回	レポート合評会（3-2）	前回のレポートに基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 13 回	春学期レポート助走（2）	レポートの構成や論理的な思考についてトレーニングします。
第 14 回	予備日	レポート相談ならびに春学期授業の補足説明をします。

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	アメリカ理解のためのトピック（3）	肥満と階級について検討します。
第 2 回	アメリカ理解のためのトピック（4）	スポーツと人種について検討します。
第 3 回	アメリカ理解のためのトピック（5）	広告を含めたメディアとその受容について検討します。
第 4 回	レポート合評会（1-1）	3・4 年次生のレポートをあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 5 回	レポート合評会（1-2）	前回のレポートに基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 6 回	レポート合評会（2-1）	3・4 年次のレポートをあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 7 回	レポート合評会（2-2）	前回のレポートに基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 8 回	レポート合評会（3-1）	3・4 年次生のレポートをあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 9 回	レポート合評会（3-2）	前回のレポートに基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 10 回	フィールドワーク（1）	身の回りにある「アメリカ」に係わる事柄を集め、日本の「アメリカ化」について検討します。
第 11 回	フィールドワーク（2）	前回の続き。
第 12 回	フィールドワーク（3）	フィールドワークの結果をどのように効果的に表象・表現するか検討します。
第 13 回	秋学期レポート助走	春学期レポート執筆からの気づきと表現の困難、ならびに一般化とステレオタイプをめぐる境界設定を確認します。
第 14 回	予備日	レポート相談ならびに秋学期授業内容の補足説明をします。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

翌週に向けた事前準備（題材を読む・観る・聞く・調べる）は授業に参加するために不可欠です。準備の方法や範囲は、毎回具体的に指示します。春・秋学期のレポート作成には相応の時間と労力を費やすこととなりますが、完成時の知的な満足感・充実感は学生時代の思い出の一つとして、なにもものにも換えられないはずです。また社会へ出てからも大きな自信となることでしょう。

**【テキスト（教科書）】**

とくになし。主に論文、新聞、雑誌、ネット記事などの印刷物を使用します。

**【参考書】**

適宜、授業時間内に指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

- (1) 発表 (30%)
  - (2) 発言や毎授業における貢献度 (10%)
  - (3) レジュメや各回コメントシートなどの課題の完成度 (10%)
  - (4) レポート (50%)
- 上記 4 つの側面を主たる評価の対象として、総合的に判断します。

**【学生の意見等からの気づき】**

引き続き学生が主体的に授業を企画・運営できるよう、サポートしていきます。また英語によるレポート執筆にも対応し、英語圏への留学も極力アシストし続けます。

**【学生が準備すべき機器他】**

動画や授業支援システムを利用することが多いので、それらを確認するための端末

**【その他の重要事項】**

- (1) 授業や授業準備を優先できる。
  - (2) 向上心・知的好奇心が強い。
  - (3) USA や特定の文化、あるいは文化全般に興味がある。
- ー 以上の条件を満たす学生を望みます。また、当演習には学部 SA 先がアメリカ以外の学生や「嫌米」の学生もいます。多様な背景をもつ学生を歓迎します。